

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅹ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	佐々木 由布子	実務経験の有無	有	開講期	3年後期

【授業の主題】

人生の最終段階における介護の意義と目的、意思決定支援のプロセスを理解し、基本的な介護の知識・技術・態度、を習得する。また、看取り期の高齢者及びその家族に対して具体的な支援方法や事例を通じて、どのようにして信頼関係を構築していくか学んでいく。

【到達目標】

- 1) 人生の最終段階における介護の意義・目的を説明できる。
- 2) 人生の最終段階における高齢者及びその家族との信頼関係の重要性とその構築の手段を理解できる。
- 3) 看取り期の高齢者の様態と、そのケアの内容を理解できる。
- 4) 「死」に対して自己覚知を通じて、他者の人生の意味や価値観を理解することができる。
- 5) ACPの必要性やプロセスについて、説明できる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 終末期における介護の意義、目的、「看取り」ケアの考え方、現代の高齢者の多様性について学ぶ
- 第 2回 終末期における高齢者の人工栄養の種類と選択（個人ワーク・グループワーク）
- 第 3回 終末期における高齢者の人工栄養の種類と選択（事例検討）
- 第 4回 告知とインフォームドコンセント、事前指定書(個人ワーク・グループワーク)
- 第 5回 人生の最終段階における意思決定支援について（事例検討）
- 第 6回 人生の最終段階における医療・ケア決定のプロセスに関するガイドライン(個人ワーク・グループワーク)
- 第 7回 人生の最終段階における医療・ケア決定のプロセスに関するガイドライン(発表)
- 第 8回 人生の最終段階における人の心身の苦痛と諸症状の理解とケア(技術、かかわり方について学ぶ)。
- 第 9回 「死」について考える(レポート作成のための視覚教材視聴)
- 第10回 「死」について考える(レポート作成)
- 第11回 「看取り」ケアにおけるACPの役割、チームケアについて(ツール・専門職の役割について学ぶ)。
- 第12回 人生の最終段階における家族ケア、家族を含む「看取り」ケアにおけるケアプラン作成について（事例検討）
- 第13回 「看取り」の法的な問題、延命治療、延命介護について考える（個人ワーク・グループワーク）
- 第14回 グリーフケア、予期悲嘆の関係、「看取り」ケアと悲嘆の関係を学ぶ。
- 第15回 臨死期のケアの方法（看取り、エンゼルケア）

【授業実施方法】

講義と演習・発表を組み合わせた講義展開とする。事前学習、視覚教材を活用し、段階的に学習を行っていく。

【授業準備】

「死」「看取り」「グリーフケア」「死生観」「ACP」に関する文献や新聞記事を通じて現代の課題を確認する。

【主な関連する科目】

介護の基本、社会福祉概論、高齢者福祉論、障害者福祉論、ソーシャルワーク演習、介護実習、ソーシャルワーク実習、ゼミナールⅠ・Ⅱ。

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ、中央法規。

【参考文献】

清水哲郎、会田薫子編 「医療・介護のための死生学入門」 東京大学出版会(2017/8/28)

高口光子著 「生活支援の場のターミナルケア 介護施設で死ぬということ」 講談社(2016/11/11)

【成績評価方法】

演習等への取り組み(10%)、レポート(30%)、筆記試験(50%)

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

高齢者福祉施設の介護職員として数十人の利用者を看取ってきた。介護現場での経験を活かし医療や多職種との連携や、事例を通じて利用者やその家族の死生観に触れることで、「死」「看取り」に対する視野を広げ再考する講義になるようにしたい。

【学生へのメッセージ】

事例を通じて、看取り期の高齢者やその家族へのかかわり方、看取りケアの重要性を学んでほしい。視覚教材、個人ワーク、グループワークを通じて、様々な「看取り」にかかわることで自身の死生観を理解し、「死」への関わり方を学んで欲しい。